

団体名	国立大学法人北海道大学国際連携機構							
事業名	「北の大地」北海道での農業体験による国際理解の促進							
実施期間	平成29年9月15日(金)～16日(土)							
場 所	鹿追町(村瀬ファーム)							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	13	0	5	35	0	2	0	55名

<実施内容>

本事業は、北海道の特徴および優位性のある農林水産業を活かし、外国人留学生、日本人学生及び地域の小学生が協同で農作物の収穫を行う体験と交流を通じて、地域住民への国際理解を深めること、日本人学生のリーダーシップを高めることが主な目的である。北海道大学からは、日本語研修コースを既習した外国人留学生11名、グローバル人材育成を目的とした特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」に所属する日本人学生4名、及び教員1名が参加した。また共同企画である帯広畜産大学からは2名の外国人留学生、1名の日本人学生及び1名の職員、鹿追町の小学校からは児童35名が参加した。

実施日当日、帯広畜産大学のある帯広市からほど近い鹿追町の村瀬ファームにて、鹿追小学校1年生9名、2年生7名、3年生8名、4年生2名、5年生6名、6年生3名の児童合計35名が合流した。村瀬ファームの職員の指導のもと、実施したじゃがいもの収穫体験は、初めてという児童が多く、外国人留学生たちと和やかに親睦を深めた。収穫体験の後、町民ホールにおいて北海道の郷土料理「いもち」をつくる昼食交流会を行い、歌と踊りを通してさらに交流を密にした。また、実施前日には、外国人留学生たちは鹿追町のバイオプラントなどを見学し、地域社会への理解を深めることもできた。

本事業は、外国人留学生にとって札幌市及び帯広市以外の住民と農業体験を通じ交流することは、またとない心に残る体験となり、日本人学生にとっては、地元住民と外国人留学生の交流をとりもつことにより様々な文化的背景をもつ外国人への理解を深め積極的なリーダーシップを発揮する機会となった。また、鹿追町の児童にとっては、12の国・地域から来日した外国人留学生と接することで他国への興味や異文化理解を深める機会となった。

<記録写真>



集合写真



ジャガイモ掘り



「いもち」での昼食交流会